(6)　自分の実践に戸惑う精神保健福祉士がスーパービジョンを受けるようになるまでのプロセス

医療福祉学研究科医療福祉学専攻博士後期課程　　○刑部多衣美
医療福祉学研究科医療福祉学専攻　　長崎　和則

【目的】

本研究の目的は，精神保健福祉士(以下，SWer)がスーパービジョン（以下，SV）を受けるに至るプロセスをスーパーバイジー（以下，SVE）の視点から明らかにすることである．

【方法】

SWer13名に対し半構造化インタビューを実施した．分析は，修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを採用した．本研究は，川崎医療福祉大学倫理委員会の承認を得ている（21-085）．

【結果】

分析テーマは，「自分の実践に戸惑うSWerが，自分のSWerとしての実践（以下，実践）を確認するためにSVを受けるに至るプロセス」である．分析焦点者は，SVEとした．現在，1名の語りを分析検討している．【 】はカテゴリー名，＜ ＞はサブカテゴリー名，「 」は概念名である．SWerがSVを受けるに至るストーリーラインは，次の通りである．

【デイケア（DC）のSWerとしての戸惑いを打破したい】SWerは，「先輩からSVを受けることを勧められる」ことで【実践を確認するためにSVを受ける】に至っていた．なお，【DCのSWerとしての戸惑いを打破したい】では，「DCでの役割は果たせる」と＜SWerとして戸惑う＞が相互に関連し葛藤し「SWerとして自分の現状を打破したい」に変化していた．＜SWerとして戸惑う＞は，「SWerとして自信がない」「実践に納得できず焦る」から成る．そして，【実践を確認するためにSVを受ける】では，「SWerの実践とは何かを確認したい」と「SVを受ける決断をする」が相互に影響していた．

【考察】

先行研究では，実践で限界に直面することがSVを受ける契機となりうることは明らかにされていたが，プロセスは明らかではなかった．今回の結果では，限界に直面してもSVを受けるためには，先輩からの後押しが必要であった．また，SVを受ける決断をするにあたり実践を確認したいという期待も現れていた．

【まとめ】

継続的なSVEの語りの分析により，SVを受けるに至るプロセス及びSVを受けることでSVEの内面にどのような影響が生じていたのかを明らかにできると考える．